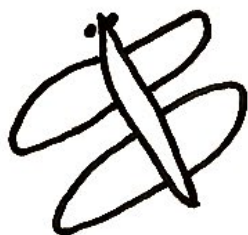
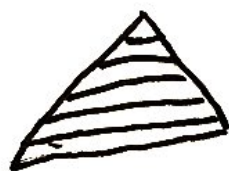
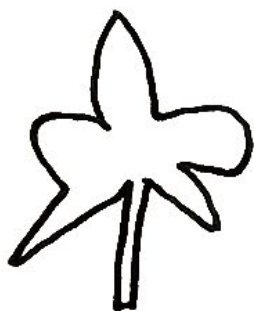
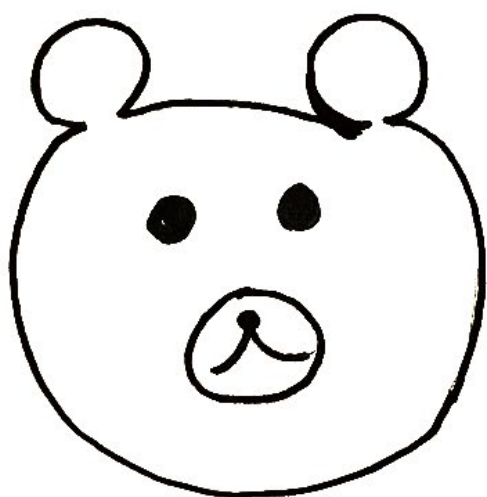
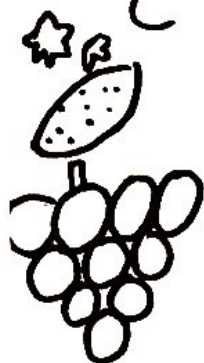
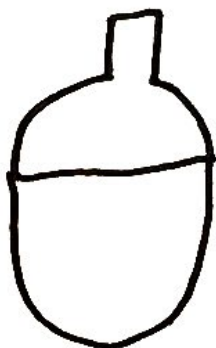


とよ・たち美肌通信

11月号 vol.136



蒼佐



November

今日号のとびたち美肌通信の

表紙は、かゆいらしいフマの親子と、

秋におしくなる食べ物がたーくさん♡♡

ぶじょう、ゆきいも、きのこ！ お腹が

空いてきちやいます。笑 大きなどんぐりも
バッチリです！

スイミングやサッカーが好きで、

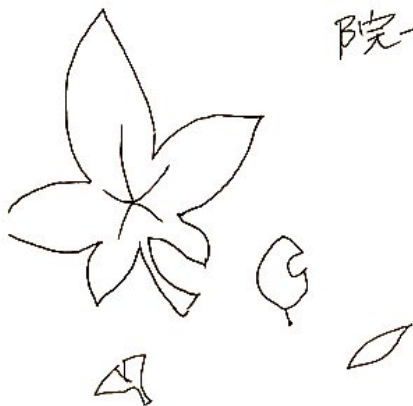
特にサッカーのリフティングが得意な

男の子が描いてくださいました

ありがとうございます😊

院長はじめスタッフ一同

いっしょに感謝いたします。



「褒めてくれる人は敵と思え。教えてくれる人、注意してくれる人を味方と思え」。これは落語家である桂歌丸氏が彼の師に言われた金言だと言います。桂歌丸氏曰く、「褒める人というのは、芽が出てきた時に、フツンと摘むのと同じ。褒められると、自分はそれでいいと思ってしまう。教えてくれる人・注意してくれる人、こういう人が足元に一所懸命肥料を与え、若木を大木に育て花を咲かせ実らせようとしてくれているのだ」と言う。

書物等を通して私の知る限りでは、成功を収めた人は必ずといって良い程、叱られて大成を成している。褒められ続けてそれを成し得た人はいない。

昨今は著明な教育者の中にも褒めて
伸ばせと言う人が少なくない。しかし、
褒めて伸ばすというのは必ず"限界"が
ある。一人の人間を一生褒め続ける事など
誰が出来ようか。誰にも出来ない。

そしてまた、そんな人間は所謂一人立ちした
後、どこかで躓く。絶対にどこかでは躓く。
そしてその人は二度と立ち上がる事は出来な
らぬであろう。

苦労は早いうちにした方が結局得をする、
と私は思っている。でもただではそうな
らない。どうせ苦労するなら、何年か経っ
た後に、その苦労を笑い話に出来る様に
努力する。努力次第で苦労の壁は乗り越え
られる。そう信じ、日々新命い、はいに生
きよう。 院長、持